

本のひろば

出会い・本・人

若手の新約学者……? 伊藤明生

本・批評と紹介

V.フランクル、P.ラビーデ 著／芝田豊彦、広岡義之 訳
人生の意味と神 安井 猛

藤原 治 著

回帰としてのカトリック 山岡三治

R.L.ウィルケン 著／土井健司 訳

古代キリスト教思想の精神 鈴木 浩

山内一郎 著

新約聖書の教育思想 関田寛雄

広岡義之 著

フランクル人生論入門 山内一郎

原田博充 著

聖書の平和主義と日本国憲法 佐野 誠

富坂キリスト教センター 編

行き詰まりの先にあるもの 関田寛雄

吾妻國年 著

歌集 いのちの四季に 小倉義明

ディートリヒ・ボンヘッフアー 著／森野善右衛門 訳

共に生きる生活 ハンディ版 佐々木 潤

既刊案内

書店案内



12 DECEMBER
2014

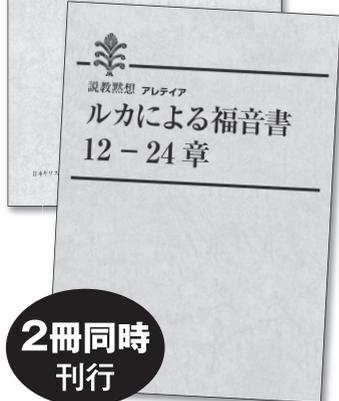
「ルカ」の連続講解が待望の単行本化！

～ 説教準備に欠かせない必備本 ～

説教黙想 アレティア

ルカによる福音書

1-11章 / 12-24章



2冊同時
刊行

聖書研究誌『説教黙想 アレティア』73～83号に連載された説教黙想をまとめた好評シリーズ。教派を超えた定評ある牧師・神父・神学者による詳細な黙想が、ルカ福音書の説教をより豊かに導く。具体的・実践的な説教者必携の書。

一執筆者

加藤常昭 / 小副川幸孝 / 橋谷英徳 / 吉村和雄
高橋重幸 / 菅原裕治 / 古屋治雄 / 上田光正
平野克己 / 佐藤司郎 / 徳善義和 / 高橋 誠
楠原博行 / 願念 望 / 焼山満里子 / 北尾一郎

◆各 B5判 並製

1-11章 460頁・6,480円 / 12-24章 436頁・6,048円

イベントのご案内

皆さまのお祈りとお支えに感謝して
『信徒の友』創刊50周年記念

感謝礼拝・特別講演会 東京

■日時 2014年12月6日(土) 午後1時～3時

■会場 日本基督教団 富士見町教会
東京都千代田区富士見2-10-1

■定員 先着300名

入場無料 ※入場整理券が必要です。

申込方法など、詳しくはホームページをご覧ください。



感謝礼拝

説教

大宮 溥氏

日本聖書協会理事長、
『信徒の友』編集委員

特別講演会

講師

姜尚中氏

聖学院大学学長、
東京大学名誉教授

「平和を実現する人々は、幸いである」



出会い・本・人

若手の新約学者……？——伊藤 明生

四半世紀前の話です。私が英国のオックスフォードに留学していた、確か二年目が終わろうとしていた頃でした。指導教官から「英国の福音派で、若手の新約学者が帰って来る。」と聞かされました。これが、初めてN・T・ライト先生のことを耳にしたときでした。まだ主要な著書もなく、寡聞にして名前も存じ上げておりませんでした。私の指導教官は「若い」と言いましたが、当時ライト先生は四〇才くらいだったと思います。指導教官が「若手」と表現したのは、大学神学部の教授世代と比べて若いということだったでしょう。英国の大学で言う教授は、各学部に一人いるのが普通ですので、日本の大学で言う学部長クラスに当たります。当時ライト先生は、まだ主著はありませんでしたが、未出版であった先生の博士論文を取り上げた書評記事が、学術雑誌に掲載されているほど有名でした。こうして、カナダのモントリオールにあるマギル大学で教鞭を執っておられたライト先生は、オックスフォードに戻っていらっしやいましたが、オックスフォードで住まいの準備が整うまでの間、私が管理人をしていた家の一階にライト先生ご一家は仮住まいなさいました。

オックスフォードに戻られたライト先生は、Wolfsen College でチャプレンの責任を果たしながら、精力的に活動なさいました。

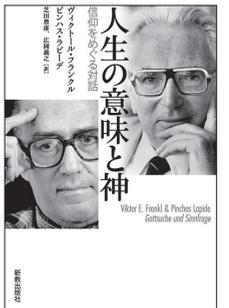
市内を自転車でする移動なざる姿を何度となくお見かけ致しました。オックスフォード大学では、神学部で準備される講義は誰でも自由に聴講することができました。私の留学中にライト先生は、ガラテヤ書の講義を皮切りに、史的イエスの研究史とローマ書の講義を行いました。私の論文の主題とは直接関係がない専門分野でしたが、良い機会と考えて、積極的に出かけて行って、良い学びをさせて頂きました。

当初、ライト先生は、大学卒業後、牧師になろうと志されて神学校で学んでいらっしやいましたが、私の指導教官のお父様が、ライト先生を見込んで、牧師になるだけではなく、神学者・聖書学者となることでも教会や社会に貢献することができる、と説得なさったそうです。私が留学から帰国した後に、ライト先生の論文集 *The Climax of the Covenant* が出版され、その後しばらくしてから、*Christian Origins and the Question of God* シリーズの二巻目 *The New Testament and the People of God* が出版されました。出版と同時に購入して貪るように読み、ライト先生の講義を復習しつつ、さらに新約聖書の理解を深めることができました。

(いとう・あきお 東京基督教大学教授)

究極の孤独と誠実さ
V・フランクフル、P・ラピーデ著
芝田豊彦・広岡義之訳

人生の意味と神
信仰をめぐる対話



安井 猛

ヴィクトール・フランクフルとピンハス・ラピーデとの間で交わされた神学と心理療法、学問と信仰をめぐる対話が発版された。二人の対話はウィーンのフランクフルの自宅で行われた。両者は相互に開かれた、誠実にホンモノの対話者である。ユダヤ教信仰と特にカトリック教会の出会い、そしてロゴセラピーの諸概念等が初心者にもわかりやすく説明されている。学問と信仰という幾分か抽象度の高い対話も丁寧に論じられている。読者はフランクフルとラピーデという稀有な二人の人格の内面へ参与するよう招かれる。

フランクフルは著名なのでラピーデについて簡単に紹介したい。ラピーデは一九二二年、ウィーンに生まれ、ナチス・ドイツによって強制収容所に収容され、労働生活を余儀なくされたが、脱走してイギリスにたどり着き、一年ほど滞在したあとパレスチナに渡った。そのあと、公的仕事をする傍ら、五〇歳で宗教哲学の博士となるという晩学の人であった。彼はドイツの諸大学と教会の招きでフランクフルト・アム・マインへ移住し、そこを拠点に一九九七年に亡くなるまで両国の相互理解と和解の

尽力した。彼を「収容所に入れたのもドイツ人で、そこから脱出を助けたのもドイツ人だった」。この経験が彼を仕事へ駆り立てた。ユダヤ教徒は戦後から今日に至るまでドイツのキリスト教会の対話の相手のナンバーワンである。評者が滞独中、ラピーデは牧師仲間の集まりで恒常的に話題となっていた。定期的に行われるキルヘンターク（教会の全国行事）においてもそうである。ドイツの教会の信徒たちはユダヤ教の神、ラビ・イエス、シナゴグと教会、旧約聖書の理解等々について、なんと多くをラピーデから学んだことだろう。

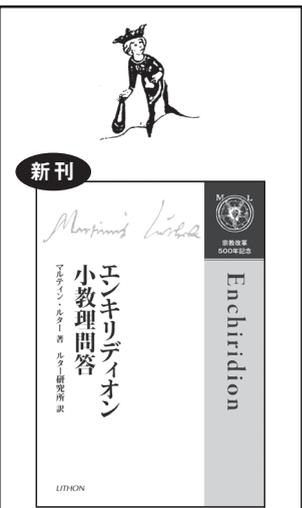
原書には一切小見出しがないが、この本の訳者は、対話に出てくる話題の各々に小見出しを付けてくれているので、読者は容易に好む箇所を選ぶことができる。ゆっくりと一つ一つの話題を読み、そして考える。どの話題から入っても良い。テキストの印象を蓄積しながら読者はフランクフルとラピーデの世界の中へ入ってゆく。これは同時に読者がそれぞれ自分の世界を理解し始めることでもある。我々は一見有限で、乏しく、繰り返し限界に突き当たるが、それでいて実はこの世界が無限に価値

の可能性を湛えた空間であることを悟る。

特に印象深かった箇所を挙げるなら、三九頁のラピーデのフランクフルへの問いである。「あなたが神と言うときに、あなたは何を意味しておられますか。『解放の日』について、その日には苦しむべきものをすべて苦しんだので『もはや世界に恐れるものは何もない——神以外に』と書くことによって、あなたは神（という言葉）であなたの強制収容所回想録を終えられましたが、それと同じ神なのでしょうか」と。フランクフルは実際、『夜と霧』の原著「巻を神という言葉で結んでいる。あなたもすべてがそれに懸っているかのように。フランクフルは答える、「……神とは私たちの極めて親密なひとりごと（自己対話）のパートナーである。このひとりごととは実際にひとりごとなのか、あるいは本来は他者との、『まっただき他者』との対話なのでしょうか。この問題は未解決のままです！」と。その「未解決」とは大正解！ フランクフルは一四四頁から一四

五頁でも言う、「それ（祈り）は、おおいなるX、方程式におけるおおいなる未知数との対話、究極の孤独と誠実さにおける、私は付け加えなければなりません。ひよっとして誠実であるのは、孤独であるからかもしれません」と。祈りは「究極の」「孤独」と「誠実」に根差す対話であると言う。この対話の精神はフランクフルのロゴセラピーの理論と実践を貫いている。ラピーデはいま引用されたフランクフルの「究極の孤独と誠実」という言葉に注目し、それは「感動的な言葉」であると述べているが、そのようにフランクフルを評した彼の魂もまた高貴で偉大である。二人の訳者も立派な訳者もつてこの共通の魂の香りを読者に届けてくれた。それ故、この本はすべての牧師、心理療法家、宗教学者、思索家、諸々の宗教の信仰者および求道している方々必読の書と確信し、一読をお奨めしたい。

（四六判・一九三頁・本体二四〇〇円＋税・新教出版社）
（やすい・たけし）日本ロゴセラピー&実存分析研究所・仙台所長



エンキリディオン
小教理問答

ルター著 ● ルター研究所訳
● B6判並製 ● 定価：900円＋税

日本福音ルーテル教会
宗教改革500年記念事業
推奨図書

ルターがキリスト者、またその家庭のために著した『エンキリディオン（必携）』の新たな全訳。本書の歴史的意義とそれが現代社会に持つ意義とは、徳善義和ルーテル学院大学名誉教授（ルター研究所初代所長）による「まえがき」と巻末の「解説」によく示されている。

ISBN978-4-86376-038-7

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
FAX 03-3238-7638

実存的関心に基づいたカトリック論
藤原 治著

帰還としてのカトリック



山岡三治

晩年にカトリックに帰還した一信徒による
体系的神学の手引き

団塊の世代に属する著者は、かつてミッション校在学中に洗礼を受けたが、その後多様な価値観に出会い、カトリックを無視して生きるようになった。広告会社に就職して十分活躍し、ベストセラーも著し、会社役員も務めていたが、なぜか定年前に退職して一心不乱に読書を始めた。それは人生の終わりを意識し始め、カトリックに戻ったことが背景にあるのだろう。その心の変化については、論理を主としている本書にも垣間見ることが出来る。たとえば、著者は近年よく売れた『ふしぎなキリスト教』などには関心をもてなかった。なぜならそれらは知識としての宗教の扱いにすぎず、生き様を含めた実存をかけた語られていないからである。

まず著者は『死論』を著し、それを高校時代の友人T医師に送ると、彼から長文の返事がきて、おもに四つのキリスト教批判があった。当時の著者は答えるすべがなく、大変に動揺したのであるが、それに答え、また自分も深く納得しようとしたの

が本書である。

しかし、最後の部分の第六篇「教会」における教皇庁などの組織やスキヤンダルなどの扱い方は、情報をよく収集しているにもかかわらず、問題点を軽く指摘するにとどめている。なぜならば——著者自身も言っているように——基本的教義と信仰のテーマを論理的に追求することに比べれば、それらは二次的なものに過ぎないからである。評者の印象からすれば、著者とその友人T医師もミッション校出身らしく真摯で学問的であると感した。

四つの問い

友人Tからのキリスト教へのおもな疑問は以下である。

- 一、神が全能なら、背かない人間を初めから創っておけばよかつたのでは？
- 二、神に背いたのはアダムとエバだけであって、その子孫には罪はないはずなのでは？
- 三、その原罪をぬぐうために神が人間の形をとって、磔の刑

にあつて、罪を贖わなければ許されないと神はこれまた度量の少ない存在ではないか？ また、磔の刑など、非常に古代的な考えでしかないのでは？

四、人間の犯した罪を許してもらうには、人間が生贄となつたのでは、位負けがするので、神自身でなければならぬ。故にイエスは神であるという理屈は正しいのか？

カトリックの上についた教理の説明

著者は、プロテスタントの教義は多様なので、「一本にまとまっている」カトリックの教義を扱うことにしたことであるが、内容を見ると、神論や創造、罪や悪、自由、三位一体やキリスト論など、カトリックとプロテスタントに共通しているオーソドックスな議論も多い。ただし古今の数々の読書の成果からの視点があるところが興味深い。

説明の順序についてみれば、『カトリック教会のカテキズム』（一九九二年）にあるような信仰告白からでなく、またカール・ラーナーの神学基礎論『キリスト教とは何か』（一九七九年、邦訳・一九八一年）にあるような、「福音の聞き手である人間とその自由」などで始めるわけではない。

むしろ神の存在証明から始める。第一篇「神」における神の創造の章や第二篇「人間」の部分で頻繁に出てくるテーマは進化論である。進化論は今公式に——条件つきではあるが——容認されている。ただし神の創造が働くところも見失わない。

神の全能と原罪の章では、引き続き進化論が扱われ、テイヤー・ド・シャルダンが前章と同様に紹介されている。

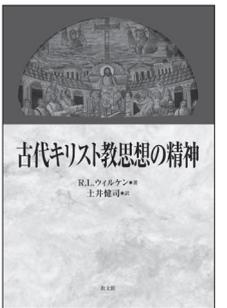
また、人間が背くことがわかっていったのに何故創造したかの議論では、神の正しさは背きによって人間が自由を得ることができるようになるためであったことにある、とする。背かない人間は「神のおもちゃ」にすぎない。また原罪についてはラーナーを引用し、「最初の人間の罪に関する記述は、むしろ人間が自分の実存的かつ救済史的状況を経験して、ここから説話風に、過去に遡って説明したものである」（『キリスト教とは何か』）を採用している。

本書はこのような論法でカトリック神学全体の詳細な入門にもなっているし、議論に応じてトマスはもちろん種々の小説も含めた多くの文献を引用している点で、現代的アプローチを考えるためにも有益であると思える。

（やまおか・さんじ）上智大学教授
（A5判・三三六頁・本体二四〇〇円＋税・教文館）

キリスト教思想の諸相をテーマごとに論じる
R・L・ウィルケン著
土井健司訳

古代キリスト教思想の精神



鈴木 浩

土井健司氏が訳された本書は、実に魅力に溢れた著作である。キリスト教は五世紀頃までに、(例えば三段階職制や単独司教制などのように)教会の組織面でも、(三位一体論やキリスト論などのように)教理面でもほぼ形を整えてくるが、この時代に活躍した教父たちと彼らが形成していったキリスト教思想の諸相が、テーマごとに論じられている。

本書は、教会史でもないし、教理史でもないし、教父学概説でもないし、キリスト教思想史でもない。著者自身が「序文」で語っているように、本書は「キリスト教思想に特徴的な」教説がどのようにして生まれ発展したのかを描くことよりも、むしろどのようにしてキリスト教の知的伝統が存在するようになったのか(七八頁)を論じた著作である。教会史、教理史、教父、キリスト教思想史を扱った著作は数多くあるが、本書のようなスタイルの著作は少し珍しい。それに、一般の読者を対象に書かれているので、専門的な突っ込んだ議論には入っていないが、要点は的確に描写されていて分かり易い。

本書は、著者自身の説明によれば、「最初の三つの章は基礎

を取りあつかい、「つづく三つの章ではキリスト教の教理をあつかい(三位一体論、キリストの働き、世界と人間の創造)、「次に来るのは信仰者を取り上げる二つの章」であり(信仰、教会)、「第9章と第10章は物事をあつかう(キリスト教詩、イコン)。次いで「倫理的生活」を論じた第11章、「靈的生活」を扱う第12章が続き、最後に総括的な「エピローグ」で締められる。

初代教会とか古代教会と呼ばれる時期は、総じて五世紀頃までに該当するが、本書には、その時代をはみ出した教父たちにも言及されている。グレゴリウス大教皇(五六〇四年没)、証聖者マクシモス(六六二年没)、ダマスコのヨアンネス(七四九年頃没)である。

初代教会を論じた著作、それも西方的伝統に立つ著者による著作の場合には、アウグスティヌス(四三〇年没)に関する言及が圧倒的に多くなるが、本書でもそれは同じで、西方教会の知的伝統の中でアウグスティヌスが残した巨大な足跡が随所に示されている。西方がアウグスティヌスの圧倒的影響力のもと

でその後の知的伝統を形成したのに対して、東方は事実上アウグスティヌスの伝統とは無関係にその後の伝統を形成していった。その意味で、本書にビザンティン神学を代表する二人の神学者、証聖者マクシモスとダマスコのヨアンネスが取り上げられているのは、好感が持てる。

マクシモスは第5章「わたしの意志ではなく、あなたの意志のままに」の中で論じられ、ビザンティン皇帝が分離していた単性論派を帝国教会に取り込むいわば最後の秘策として押し付けた「単意論」に反対して、カルケドン正統主義をほとんど独力で守りきって殉教したマクシモスの論拠が描かれている。

ヨアンネスはイコン破壊論争を取り上げた第10章「これを別ものにして」に登場し、イコン擁護に関連してストウディオオスのテオドロス(八二六年没)にも言及されている。ヨアンネスは「イスラーム世界におけるキリスト教の修道士」(二三四頁)と呼ばれているが、皇帝主導のイコン破壊運動による迫害の及

がない地であって、イコン擁護の論文を書き続けた。

ついながら、マクシモスの著作の日本語訳は『フィロカリア』第三巻(新世社、二〇〇六年)に「愛についての四百の断章」と「神学と受肉の摂理とについて」が、第四巻(同、二〇一〇年)に「主の祈りについての講解」が谷隆一郎氏の翻訳で掲載されており、ダマスコのヨアンネスの「知識の泉」は『中世思想原典集成』第三巻『後期ギリシア教父・ビザンティン思想』(平凡社、一九九四年)の中に、小高毅氏による抄訳で掲載されている。

本書は、「この人びとは、今日でもわれわれの教師なのである」という言葉で締め括られている。まったく同感である。

(すずき・ひろし)ルター学院大学キリスト教学科教授
(A5判・三五六頁・本体四一〇〇円+税・教文館)



カルヴァンとカルヴィニズム

キリスト教と現代社会

日本カルヴィニスト協会 編



カルヴァン主義は、学術・文化・芸術・政治・経済にどのような影響を与えたか、各界で活躍する論者によって有神的文化樹立のためになされた講演と論考。

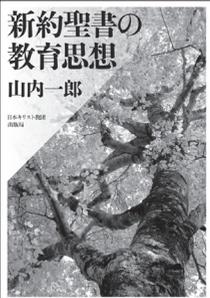
A5判・上製
定価 [本体 5,600 + 税] 円
ISBN978-4-86325-070-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

キリスト教教育の聖書学的根拠を明確にする書
山内一郎著

新約聖書の教育思想



関田寛雄

本書の著者は第二次大戦後のキリスト教教育の分野で、高崎毅、今橋朗、水野誠等の諸氏に伍してその学問的・実践的な指導を続けて来た方である。関西学院大学神学部においてキリスト教教育及び新約学の教授として貢献されたのみならず同学院院長、理事長の職務を通してキリスト教主義学校教育にも豊かな足跡を残して来られた。

本書刊行の意図は、「まえがき」に明らかである。前者「神学とキリスト教教育」(神学双書6、一九七三)によって著者は、キリスト教教育の神学的根拠、即ち弁証法神学による近代主義的な直接連続性のキリスト教教育批判に依りて、新しい神学的視点、即ち啓示に基づく非連続の連続の立場からのキリスト教教育の基礎づけを行った。今回は改めてその聖書学的根拠を明確にしようとするのである。特に、新約聖書におけるそれを解明するべく、著者の新約学研究の成果の全てがここに投入され展開されている。

本書の構成は大きく二部に分たれて、まずは「第一部 福音書における『教師』イエス像」の解明がなされる。今まで等閑

に付されて来た「教師イエス」の原像が、新しい史的イエス研究の成果をふまえて探求され、「歴史のイエス」が「信仰のキリスト」のはじめに立っており、両者の「非連続を媒介とした対応関係」が洞観される。勿論「イースター以前と以後という歴史的内容キリストの相違にもかかわらず」、両者の間にはいわば、間接的、連続という事態が看取される。そしてその成立の「生活の座」としての「師弟同行」の道が示唆される。続いて四福音書に個性的に記述される教師イエスの姿が、綿密な釈義をふまえて極めて説得的に展開される。マルコでは權威ある「新しい教え」の教師イエスが、マタイでは律法の成就者、解釈者としての教師が、ルカでは救済史の中心に立つ隣人愛の模範としての教師が、そしてヨハネでは真理の受肉としての教師イエスが描出される。その際に通底するものが模倣(イミタチオ)を契機とする「師弟同行」の道なのである。ここでは「アツバ・父」なる「イエスの神観」が師弟を結びつける強い絆であったことは言うまでもない。

「第一部 原始教会におけるキリスト教教育」においては、

まず最初期におけるケリユグマ及びそれに伴う伝承の成立と共にある種の信仰定式が生まれ、やがて直面する異端との対応に迫られる事態となって来たことが概観される。それがカテケシスなる教育活動を必然化したことは明らかである。ここで著者積年の論議である「ケリユグマとデイダケー」の関係についての著者の主張に触れておきたい。C・H・ドッドの著名な『使徒的宣教とその展開』は、デイダケーは主として信者を目的とした倫理的教訓であり、他方ケリユグマは非キリスト教世界に対する福音の公然たる宣明であると主張した。この二分法は更にケリユグマの先行、デイダケーの継続へと展開され、また説教の主体と教育の従位へと結ばれる。これに対して著者は多くの資料及び諸研究成果をふまえて、両者の「相関性」及び「相補性」を主張し、むしろ「ケリユグマに先行するデイダケー」を主張される。つまりデイダケーを場とする関係なくしてケリユグマはケリユグマたり得なかつた筈という訳である。こ

の点今日の教会における、しばしばドグマ化した説教中心主義に対する極めて建設的な修正として聴くべきことであろう。次いでパウロ及び関係書簡における「教師」観が綿密な釈義と共に展開される。勿論ここでは福音の伝承及びそこから生まれる倫理についての勧告という教育的営為がなされるのだが、特に著者の関心はIコリント11・1に典型的に述べられている「キリストに倣う」者としての教師の実存を通してこそ、間接的(聖霊の働きによって)に福音の伝達の間が確立されるという所にある。

今日の教会における観念化、ドグマ化、權威主義化の進行に対して「千天の慈雨」の如く魂を潤してくれる貴重な教育的神学の書である。
(せきた・ひろお) 日本基督教団神奈川教区巡回教師
(A5判・三三〇頁・本体三〇〇円+税・日本キリスト教団出版局)

フォト・ソングブック **美しい大地は**
桃井和馬 写真 陣内大蔵 選詞
Ensemble DUMAGUETE 演奏 **CD付**

桃井和馬氏の写真と「讃美歌21」のことばが、この時代のわたしたちに寄り添う。収録曲の弦楽四重奏CD付き。
A5判横 64頁・2160円

「信徒の友」創刊50周年記念復刊 **人生おもしろ説法**
田河水泡
「のらくろ」の作家田河水泡が、聖書を題材に人生の機微を笑い話と挿絵で綴った伝道エッセイ。
四六判・216頁・1620円

叫び声は神に届いた
旧約聖書の12人の祈り
W・ブルツゲマン 福嶋裕子訳
アブラハムからヨブまで、体裁を捨てて心を注ぎ出す12人の祈る姿を描く。
四六判・272頁・2680円

日本キリスト教団出版局
〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457
E-mail eigyout@bp.uccj.or.jp (価格8%税込)
<http://bp-uccj.jp>

深い理解と共感を平易に語る
広岡義之著

フランクル人生論入門



山内一郎

著者は『ボルノー教育学研究 上・下』（博士論文）で知られる気鋭の教育学者である。ボルノーの「良心への覚醒」は超越的な宗教性を包摂するが、その点をより明確化しようとする関心からフランクルの「ロゴセラピー」（実存分析）に向かい、数年前に学術書『フランクル教育学への招待』（2008）を公刊したが、その後、東日本大震災が発生した。今なお厳しい試練の中で不安な心を立て直そうと頑張っておられる方々へ「励まし」となるために本書の執筆が始まった（「はしがき」）。

全体は四部構成で、第一部はフランクルの生涯に関する評伝。彼は幼少時代から医学生としての活動時代を経て、強制収容所における限界状況の苦悩の中で「ロゴセラピー」確立に至った経緯、その後晩年までのフランクルの活躍と評価が克明に跡付けられ、『夜と霧』によって広く知られるヴィクトール・フランクルの思想と実践の全貌を知る上での的確な導人になっている。

続く第二部で、本書の中核を成すフランクルの「人生論的宗教論」が百数十頁を割いて論じられる。1『夜と霧』から学ぶ

た憾みがあるだけに、人間の「自己超越性」や「良心」についての考察など極めて有意義と思われる。

そして、第四部「イエスとロゴセラピー」は、現在絶版になっているR・C・レスリー著（萬代訳）『イエスとロゴセラピー』の紹介・解説で、これは福音書が証言するイエスの信仰とフランクルのロゴセラピーの間に存する共通項、むしろキリスト教の視点からフランクルの思想を理解する上で貴重な文献である。ここでは、1「孤独な徴税人ザアカイとイエスの「我と汝」の関係（ルカ19章1-10節）、2ヤコブの井戸で人生の無意味さに終止符を打ったサマリアの女（ヨハネ4章3-30節）、3マリアの「究極的関心」（ルカ10章38-42節）、4ベトサダの池の病人における「態度的価値」の実現（ヨハネ5章2-15節）の物語りが取り上げられ、イエスが人間の硬直した狭い人生観から抜け出て、いのちと「生きる意味」の根源としての隠れた「神」に立ち返る一事を呼びかけたこと、そして人生の意味が

ことのできるフランクルの人生論、2「実存分析」という切り口から展望した現代の問題、3意味喪失の現代における教育的使命、4フランクルの信仰論、5人間についての宗教的命題、6「良心」「超越」「宗教」の関わり、7フランクル思想の「宗教性」について、8フランクルにおける「態度価値」とは、9「真の生きる意味」をめぐるフランクルの宗教的思想、10「愛」の意味について、11「人生の意味」を充足するための宗教教育、12「苦悩」の教育学的意義と課題、13フランクルの人間形成論以上十三項目に亘り、フランクルをして語らしめる仕方で克明に解説される。「まず」調のリーダーな文体ながら、内容が人生の深みの次元からの問いかけを含むゆえに、軽く読み飛ばすことはできない。著者が節ごとに付している小見出しが論旨を働き、読者の理解を助けて非常に有益である。

第三部では、フランクルと宗教哲学者ヒッピーデとの対談集「人生の意味と神」（芝田、広岡共訳、新教出版社）の内容が要約的に紹介される。従来ともすればわが国におけるフランクル研究や翻訳書が彼の思想の背景にある宗教性を正視してこなかった

人間を超えていることを強調するフランクルのロゴセラピーが、人生の意味を吹き込む「宗教教育」の領域で果たすべき重大な役割について繰り返し言及される。筆者自身、本書から種々啓発されたが、神学的には「良心の秘義」とウェスレーの「先行の恵み」、テイリツヒの「究極的関心」、プーバーの「我（Self）と汝（The Spirit）」などを巡って、宗教と教育の相关性について著者と今後も対論できることを希うものである。

人間存在が根底から壊れていくような新しい唯物論、無神論的ニヒリズムが蔓延する中で、本書は「心のありかた」「生きる意味」について、聖書の福音に立つ著者が、フランクルに則り分かりやすく説き明かす稀有な「人生論的信仰論」であり、万人に推奨したい。

（やまうち・いちろう＝関西学院大学名誉教授）
（B6変型判・二六六頁・本体二〇〇〇円＋税・新教出版社）



べてるな人びと

第4集 幻聴さんに奪われた恋

向谷地生良

Ikuoyoshi Mukaiyachi



べてるの実践は、
“笑える奇跡”だった！

斎藤環さん推薦
精神科医・自己病名「味方っぽい宇宙人」

世界にじわじわと広がりだした〈べてる〉。ここには教会形成のための多くのヒントがある。

四六判・上製
定価【本体 1,800 + 税】円
ISBN978-4-86325-067-3



株式会社 一麦出版社
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10
TEL (011) 578-5888
<http://www.ichibaku.co.jp>
携帯 mobile.ichibaku.co.jp

憲法九条擁護論の主たる根拠はキリストの教え
原田博充著

聖書の平和主義と日本国憲法



佐野 誠

この原稿を書こうとしているとき、日本社会党委員長や衆議院議長などを務めた土井たか子氏が亡くなった。土井氏は日本国憲法九条の徹底的擁護論者、反戦論者であり、時代状況が変化してもその主張は全くぶれなかった。選挙演説などで憲法九条や平和の理念を語る姿勢には鬼気迫るものさえあった。

ところで、この土井氏に勝るとも劣らず、憲法九条の重要性を主張するのが、本書の著者原田博充氏である。原田氏は四八年間にわたり、単立・京都みぎわキリスト教会で教会活動を行ってきた一牧師である。本書は牧師在任中に書き綴られた小論を纏めたもので、聖書に基づいた平和主義思想を情熱的に論じている。

本書は二部構成になっている。第一部は「講演・説教」、第二部は「随想・短言」である。前者は、教会や集会の礼拝説教で語られたり、キリスト教平和主義雑誌に掲載されたりした内容を論点に即して編集したものであり、後者は、キリスト教雑誌や研究所の機関紙などに書かれた比較的短い文章を所収したものである。第二部に著者の主張のエッセンスが手短かに纏めら

れているので、こちらから先に読むことも可能である。以下では本書の論点を二つだけ紹介しておきたい。

その一つは、「聖書の平和主義」と「日本国憲法」九条の間に密接な関係があるということである。著者の憲法九条擁護論の主たる根拠はイエス・キリストの教えにあり、それはとりわけ、マタイによる福音書五章九節「平和を実現する人々は、幸いである。その人たちは神の子と呼ばれる」と同福音書二六章五二節「剣をさやに納めなさい。剣を取る者は皆、剣で滅びる」に収斂する。このイエスのみ言葉を現実化する条文が憲法九条であり、平和の理想が掲げられた「前文」と戦争放棄の「九条」は著者にとって「天与のもの」（二六頁）にほかならない。「天与のもの」である以上、それを擁護し、国家・社会に生かし、全世界に発信することは日本のキリスト者の責務である。

旧約のアブラハム、イサク、ヤコブ、ヨセフが登場する族长時代は平和な時代であったが、その後、モーセ、ヨシヤアからサウル、ダビデへと続く国家の形成・強大化の時代に戦争、紛争が増大した（一八頁以下、三〇頁以下、一七五頁以下）。国

家の存在とその強大化が戦争の根源である以上、国家間の脅威や摩擦を戦争放棄や武力不保持によって縮減させることこそが、平和をつくり出す最善の道と著者は考えるのである。

今一つは、憲法九条擁護の主張それ自体が、「集団的自衛権」の行使を初めとする様々な政府与党の暴走の歯止めになるという点である。これまでの日本が他国と戦争をしなかった要因に憲法九条の存在があることはよく知られている。憲法九条を骨抜きにし、日本を戦争可能な国にする政府与党の改憲意図を阻止する力の源は、著者のように、頑なまでに憲法九条の有用性を主張する姿勢以外にはありえない。「本書の諸文章」は、「憲法九条、憲法九条……と叫んでるようなものである」と著者は「あとがき」で自嘲気味に語っているが、この「繰り返し」の態度こそが改憲を阻止する唯一絶対の現実的手段なのである。

ナチスが犯したユダヤ人大虐殺の大罪が、ドイツで「繰り返し

し」学生や子供たちに教育されるのも、人間は自分たちの犯した過ちを忘却しがちであるからにはほかならない。「過去に目を閉ざすものは、現在に対しても盲目である」というドイツの元大統領R・V・ヴァイツゼッカーの言葉は、第二次大戦時にアジア大陸を侵略した日本軍の蛮行にも十分通用する言葉である（二二頁）。その意味で、日本の過去の蛮行に対する隣国への謝罪および悔い改めと憲法九条擁護は著者にとってコインの表と裏の関係にある。そしてこの謙虚に悔い改める姿勢こそが、人間の神からの離反（＝原罪）に対するイエス・キリストの贖罪という視点に通じるものなのである。本書で著者が最も強調したかったことは、実はこの点にあるのではないかと私は密かに思っている。

（さの・まこと＝奈良教育大学教授）
（四六判・二三〇頁・本体二〇〇円＋税・キリスト新聞社）

キリスト新聞社の本
Kirisuto Shimbun, Co., Ltd.

好評シリーズ!

現代の教会を考えるブックレット

2 牧会ってなんだ？

現場からの提言

越川弘英 ● 編著

長年、都会や地方での牧会を経験したベテラン・中堅牧師たちとの対話を基に、その実践例や課題を含めて考察する。

① 健康な教会を築くために
② 宣教師の心
③ 現代の課題と展望

■ 本体 600円

2 牧会ってなんだ？
——現場からの提言——

越川弘英 ● 編著

今橋順、亮一、古賀博、平野友己、増田幸 ●

■ 全書 1,400円

好評につき
2刷

キリスト新聞社
351-0114 埼玉県和光市本町 15-51
和光プラザ2階
TEL. 048-424-2067 (節税は別)

E-Mail: support@kirishin.com
URL: http://www.kirishin.com

重い現場をふまえた発題と貴重な示唆
富坂キリスト教センター編

行き詰まりの先にあるもの ディアコニアの現場から



関田寛雄

「本書は、富坂キリスト教センター『社会事業の歴史・理念・実践』ドイツ・ペーテル研究会（二〇一一年四月〜二〇一四年三月）の研究成果をまとめたものです」（「おわりに」から）。その内容は七人の、それぞれ重い現場をふまえた発題と貴重な示唆を与える文章から成り立っている。

「ペーテルの歩みと今後の諸問題」（橋本孝）は、一八六七年、F・V・ボーデルシュヴィングによって設立された福祉都市、「慈悲の町」と言われるペーテルの歴史と現状が語られている。特に第二次大戦中のナチスの病者、障がい者に対する絶滅政策への果敢な抵抗の歴史も含めて福祉の原点にあるものを明示してくれる。

『いのち、ありがとう』と言える社会をめざして」（長沢道子）には、社会福祉法人「牧ノ原やまばと学園」の発元と現状が報告されている。一九七〇年、日本基督教団榛原教会牧師長沢巖牧師・道子夫人が三〇名の重い知的障がい児たちと立ち上げた施設の創設の動機には、長沢牧師の、知的障がいの姉の存在があった。「礼拝・伝道・奉仕」の三本柱によって地域に仕

えるべく始めたこの運動は様々な偏見と差別に抗しつつ展開されてきたが、施設長長沢牧師が脳腫瘍手術の不成功から一番重い障がい者になるという悲劇が訪れた。「なぜ?」の答えはどこにも見いだせません。……泣いてはいられない日々でした。夫への二十四年に及ぶ介護と共なる、道子夫人の信仰に裏打ちされた闘いの経過はまさに「行き詰まりの先にあるもの」を明示してやまない。

「裁判は終わったけれど——ハンセン病諸問題」（難波幸左）は、日本政府のハンセン病対策における甚だしい人権抑圧の九十年に及ぶ経過の総決算としての、「らい予防法」の廃止（一九九六年）および『「らい予防法」違憲国家賠償請求訴訟』の経過を述べると共に、依然として続くハンセン病に対する偏見と差別の問題に鋭く切り込んでいく。患者たちの結婚における断種、墮胎をはじめ重監房などの患者たちへの人権抑圧におけるキリスト教会の責任にも言及されている。著者自身、難病の夫の介護の中から信仰の革新を経験させられている。

『浦河べてるの家』のあゆみから」（向谷悦子）は、北海

道浦河町の小さな教会から始まった精神障がい者の共生施設の歴史である。統合失調症やアルコール依存症の人々との共同生活の中で夫の姿勢にやっとの思いで行きながら、「当事者研究」という方法の中で施設と共に成長していくすばらしい物語である。

「いのちが響きあう社会を目指して」（平田義）は、賀川豊彦の精神を継承するイエス団の働きの展開を述べている。障がい者の自立を目指す試行錯誤の闘いの中から「命の重さ」を強く示されていくと共に、障がい者をめぐる諸法律の限界とも向き合い、その改善を求めつつ、「この子らを世の光に」と叫ぶ糸賀一雄の声に回答し続ける力強い闘いの報告である。

「ディアコニア（愛の奉仕）について」（岡田仁）はディアコニアの概念を聖書から始めてキリスト教史を貫くキリスト教会の本質的使命として跡づけ、ケリュグマ（宣教）、ディアコニア（和解と奉仕）、コイノニア（交わり）の一体化の中に「神の言」

の受肉の現実があると説かれ、今日の宣教のあり方への貴重な示唆が提供される。

「キリスト教会の牧師としての行き詰まり」（山本光一）は、これらの著者たちの「座談会」の座長として、日本基督教団の「戦責告白」と「ミッシオ・デイ」（神の宣教）の神学に触発されつつ、統合失調症に苦しむ弟との交わりの中から、自らの「中途半端さ」と行き詰まりを突き抜ける、「宣教が神ご自身の活動である」ことを希望として歩み続ける告白そのものである。本書は、牧会や福祉における「成功」なるもの信じ得ない者にとって深い慰めの書であると言えよう。

（せきた・ひろお青山学院大学名誉教授）
（A5判・二八八頁・本体二〇〇円＋税・いのちのことは社

春風社の新刊



キリスト教人格教育論

——個人の尊厳を見つめて

東洋英和女学院大学教授 吉岡良昌

◆二十七年に及ぶ、キリスト教に基づく人格教育の探究と実践。

すべての教育は個人の尊厳を基盤とするべきであり、その実践にはキリスト教の人間理解と価値観が不可欠であることを、南原繁、森有正、コメニウス、エリクソンらの主張に触れながら、歴史的に立証。ミッションスクール主義も問う提言の書。

定価 本体三〇〇円＋税 ◆四六判上製 ◆二四八頁

春風社

〒220-0044 横浜市西区
紅葉ヶ丘53 横浜市教育会館3F
info@shumpu.com
http://www.shumpu.com
TEL 045-261-3168/FAX 045-261-3169

信仰告白と賛美の詩歌とエッセイ
吾妻國年著

歌集 いのちの四季に



小倉義明

著者は東洋英和女学院で長く聖書を教え、のち高等部部长(校長)となられ、現在は同学院の副院長の重責を担うほか、キリスト教学校教育同盟の常任理事等を務める、伝道者の教育家である。

本書の三分の二、約一九〇頁は書名に銘打たれているように短歌集で、五六〇首余りが収められている。まず、著者の明澄な詩心・豊かな抒情性が伝わってくる。歌集各部の表題からして「道」「憧憬」「花の影」。その各部もいくつかの群詠から成り、例えば「道」の部の群詠には「白鷺」「墓碑」「家族の肖像」「花の想ひで」「母の面影」等の題がつけられている。

いずれの歌にも「いのち」に対する繊細な感受性が溢れており、心打たれるものがある。例えば「家族の肖像」。著者は十年前に御夫人に先立たれた由(「牧之庄のこと——あとがきに代えて」)、その哀切の教旨——

妻永眠 闘病果てし安らぎに

若き日の如 顔うつつくし

わが子らの看護・介護にいそしむを

なし得ぬ父はただ有難く

*

本書の三分の一、約八〇頁はエッセイ「紫微花の咲く頃」。表題は詩的であるが、内容は著者の悲痛な幼少年期の体験から始まる。両親のはからいで子どもたちは山梨の祖父父母のもとに預けられた。が、東京大空襲が両親の命を奪ったのだ。エッセイの末尾は、次のような一節でしめくくられている。

夏になると紫微の花が咲き、子供の頃の想い出が走馬灯のようにめぐってきます。……祖父父母は三人の孫たちを育てるために貧窮し、……「紫微花」の木も売却するほかはありませんでした。やがて共に病没の道をたどり、代々続いた家は没落したのです。けれども、幼い私たちを守り育ててくれた祖父父母のことを想い起こすとき、私の心は喜びと感謝で溢れます。またその面影をどうしても想い起こせない私の父と母に「かの日には」会いたいと切に願っています。……(二)

八四頁

右のように、幼くして死別した両親に対する思慕と養育してくれた祖父父母への感謝が伏流水となって湧き出した泉が、このエッセイであると言えよう。ところがこのエッセイは初めのうち幼少年期の想い出を語る随想であるが、いつの間にか死や罪責といった人間の根元的問題に迫って思索をめぐらす論考の趣を呈する。

例えば、第一エッセイ「精霊流し・キュウリ馬とナス牛」。お盆が過ぎると、仏壇に供えたナス・キュウリに割り箸の脚をつけた牛馬を川に流して来るように、と祖父から言われる。少年の著者がこれは何? と訊ねると「お前のお父さんたちがそれに乗って、冥土に帰るんだよ」。

私は田畑の小道を歩いて笛吹川の岸辺に行つて流しました。しかし私はそこで、父母の霊魂が再び地獄へもどつて行くという話に、子供心にも言い知れぬ「悲しみ」の感情を抱いた

ことを憶えています。(二一〇頁)

こうして著者は、死や死後の魂の行方という問題を問い続けることになる。著者の独自性は、仏教的な死生観や儀礼を無下に退けることなく、ついに聖書信仰へと抜け出てゆく点にある。古今東西の思想家や宗教者の言に及ぶこと夥しく、著者の読書量は驚くほどだ。その探究は、アウグスティヌス『神の国』の味読へと至る。この項と、創世記の墮罪物語の項は、神学的書写的な知見をふまえて秀逸。続く「時満ちて」「イエスの贖罪の血」以下の項は、エッセイと言うより信仰告白と讚美の香りを放っている。

このような柔軟な精神と真摯な探究心を持つ伝道者・教育家がいることを同業者として誇りに思う。詩心と思索の双方を大切にしたいと願うすべての人に、本書を心をこめて推奨する。(おぐら・よしあき 日本基督教団使徒教会教師)

(四六判・二九〇頁・本体一五〇〇円+税・教文館)

聖公会出版

——新刊案 内——

記憶の癒し

アハルトヘイトとの闘いから世界へ

著●マイケル・ラフスレー 監修●西原廉太

著者は、テスモンド・ツツ大主教らとともに南アフリカのアハルトヘイト撤廃運動家として献身。そのため一九九〇年手紙爆弾テロに遭い、両手と片方の目の視力を失った。その体験から苦難にある人々の癒しの旅路に寄り添うことを選び取った。本書はその感動の軌跡を綴ったもの。故ネルソン・マンデラ元大統領が絶賛した話題の一冊。

心打たれて生きる 112の物語

Touched by God

著●アンシア・タフ 訳●金成彰子

著者は英国ヨークシャーの美しい自然の中、人生の感動、悲劇をふくめたあらゆる出来事に神の気配を感じる。叙事詩のような112の美しい文章の中で、いかに神の差し出す手に触れることができるのかを、そっと教えてくれる。

ユーカーリスト

新たな創造

著●ウィリアム・クロウット 監修●竹内謙太郎 訳●後藤務

クリスチャン共同体の中心となるユーカーリストの伝統について、新約時代、中世、宗教改革時、近代、現代までの神学的解釈を網羅する。著者のクローケットは、バンクーバー神学院の組織神学教授。欧米の多くの神学校の教科書となっている定評のある一冊。

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1
☎03(3235)5681 FAX 03(3235)5682
http://seikokai-publishing.jimdo.com
nsk-bookshop@company.email.ne.jp

読みやすい形で再登場した不朽の名著
 デイトリヒ・ボンヘッファー著
 森野善右衛門訳

共に生きる生活 ハンデイ版



佐々木 潤

もう三十年以上も前の話だが、神学校に入学して寮での「共に生きる生活」に加わってからはほどなく、新入寮生たちの間に読書会の企画が立ち上がったとき、最初に選ばれたのが本書だった。訳者の高弟であった大学院生K海氏の手ほどきで、この名著の説く知恵の言葉にみな引き込まれていった。当時の版は「教会と宣教双書」として『正日教会と世界教会』（ボンヘッファー選集6）から単行本にされたものであり、多少の改訂はあったものの選集の版組のまま、字が小さく行間も狭くて決して読みやすくはなかった。それでも「目に見える交わりが恵みである」との一文の奥深さにならず、共同生活にうかつに持ち込んだ誤った期待も懐疑もすべて鋭く診断され適切に処方されていくのに驚きつつ、満足して読了した。腰を据えた寮生活はこうして始まった。厳しい研鑽に明け暮れ、打ちのめされ消耗する日常の姿を互いに曝している中で、共に生きる喜ばしさを味わい、それを蝕む敵の所在も嗅ぎ分けて乗り越えていった。そしてそれぞれが巣立っていった。

この原体験が忘れられずに、教会で分かち合いたくて、何度

となく本書の読書会を開いたのだが、参加者の多くは、内容の深さもさることながら何より文の難解さに困惑した。それでも放り出さずに読了に至るのは、やはり本書の宿す並々ならない力に触れるからだ。

「交わり」とか「共に生きる」とかいう言葉の響きに私たちは安心を夢想し憧れを抱く。しかし同じ言葉の指すものが、しつこく消えない汚れや疵を心に遺しているのも事実である。私たちは交わりを必要としているのに、それに失敗してばかりいる。教会の止むことのない課題である。

「交わり」を話題にすると、それは追求すべき神学的主題ではないと言われ、何かしら俗的で幼稚なことにように冷笑する反応が返ってくることもある。交わりを求めると教会はキリスト抜きに俗集団に墮する危険があると警戒してのことなのだろう。たしかに疑似家族的なものを教会に期待してやって来る人がある。迎える側は懸命に応えようと努めるが、悲しいかな、やがてほころびが見え始めると、克服できずに多くの人は失意のうちに教会を去る。そして教会は苦悩する。「教会では人を

見ずに神を仰ぐのです」というような誰ともなく必ず口にするもつともし警句も、交わりへの失望を映し出しているのかもしれない。しかし、人を見ないで、いったい何が見えるというのか。私たちはそんなに見てはいけないものを見ているのか。「目に見える交わりが恵みである」。このことを知る修練は、日曜日の朝、会堂の玄関に入ったところから始まっているのではないのか。

本書は、ひとりですみず誰かと一緒に読むことをお薦めする。しかもできるだけゆつくり。そしてできるなら何度も。

他のどんな主題とも違って「交わり」だけは、礼拝説教で聞いても講演で学んでも身につかない。ましてや交わりに懲りて家にひとり逃げ帰って熟考しても突破口はない。やはり兄弟姉妹と共に坐するところで学ぶしかない。そのとき本書を、相手の顔と重ねて聞くことで、本書は力を発揮する。ひとりで読んでも分らない。誰かと一緒に読みたいくなる本だ。読み始めれ

ば、さらに誰かを招き入れたくなる。まさに読書会向きである。ボンヘッファーに詳しい指導者がいなくても構わない。多くの引用された聖書の言葉が懐かしくも新しい響きをもって参加者を牽引していくことだろう。

今いる教会の中のある小グループでも、前任牧師の指導を引き継いで本書を読み続けている。十年ほど前に同じ書物が同じ訳者の労で同じ出版社から「改訳新版」として出たとき、格段に読みやすくなり註も充実してさらなる研究に資するものとなったことを喜んだものだが、その品切を機にこのたび「ハンデイ版」となつて登場した。文字も版組もそして訳文もますます読みやすくなったことにみな喜んでる。ライフワークともいえるべき取り組みで訳文を磨き上げてくださった森野先生、そして本書を次代に贈る出版社の心に、謝意をもって応えたい。

（佐々木・じゅん）日本基督教団武蔵野教会牧師
 （B6変形判・二三三頁・本体一六〇〇円＋税・新教出版社）



新刊 宗教改革 500周年とわたしたち 2

ルター研究 別冊2号

ルター研究所 編

●A5判並製 定価：2,000円＋税

教理問答とその時代
 高井 保雄

『エンキリディオン』の
 実践的意味
 徳善 義和

小教理問答クラスの実際
 一むさしの教会の場合
 大柴 譲治

贈与の神学者ルター
 江口 再起

『小教理問答』の聖礼典
 における罪の赦しの問題
 立山 忠裕

堅実に聖書を読み、
 ルターから学ぼう
 一小教理問答の対話に備えて
 徳善 義和

一九一七年の日本の宗教改革
 四百年記念
 一希望を与える記憶
 ティモシー マッケンジー

『メリアン聖書』のこども 徳善義和

LITHON [リトン]

〒101-0061 千代田区三崎町2-9-5-402
 FAX 03-3238-7638

キリスト教
本屋大賞

全国のキリスト教書店員
おすすめの**本!** **大賞の発表**

▶ご注文は最寄りの
キリスト教専門書店へ

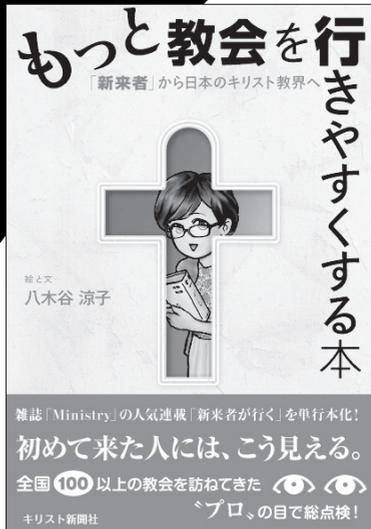
2013年刊行の本で

No.1のお薦め!
大賞

**もっと教会を
行きやすくする本**

「新来者」から
日本のキリスト教界へ
八木谷涼子◎著

はじめて教会に行った「新来者」が教会からど
んな印象を受けたか、教会のどんな対応を好
ましく思い、あるいはそう思わなかったのかを
イラスト満載で解説! 牧師や教会員におすす
めの一冊! 1,620円(キリスト新聞社)



2位



祈りの小径

小島誠志◎著 小林恵◎写真
「信徒の友」巻頭の「祈り」から29編を精
選し、彩り豊かな写真を添えて贈る。
1,944円
(日本キリスト教団出版局)

3位



地図と絵画で読む
聖書大百科
【普及版】

バリー・J・バイツェル◎監修
船本弘毅◎日本語版監修
大型ビジュアル百科として好評
を博した『聖書大百科』がコンパ
クトサイズになって登場!
4,536円(創元社)

Christian
Bookshop Award

主催:キリスト教出版販売協会 書店部会、販売部会、出版部会

※重版の際、価格を変更することがありますが、ご了承ください。価格表示は8%税込。

キリスト教書店が売りたい本!

【選考方法】ノミネート10作品から再投票
を行い、1位=5点、2位=4点、3位=3点と
し、合計得点を元に出した順位です。

キリスト教

本屋大賞
発表!! 2014



Christian Bookshop Award

キリスト教出版販売協会加盟の書店が選
んだ売りたい・お薦めの本の大賞がつい
に決定しました!

- 4位** 面倒だから、しよう 渡辺和子◎著
1,028円(幻冬舎)
- 5位** キリシタン黒田官兵衛 上巻 雑賀信行◎著
1,512円(雑賀編集工房)
- 6位** バイブルワールド 地図でめぐる聖書 ニック・ページ◎編
1,728円(いのちのことば社)
- 7位** ハーフボリュームバイブル 共同訳聖書実行委員会◎編
7,128円(日本聖書協会)
- 7位** 教会では聞けない「21世紀」信仰問答I まずは基礎編
上林順一郎◎著 かぴばら◎マンガ
1,944円(キリスト新聞社)
- 9位** マンガで読む日本キリスト教史 タイムっち なぜ天皇が神サマになったのか
岡田明◎作 みなみななみ◎画
2,160円(キリスト新聞社)
- 10位** 福音の再発見 なぜ「救われた」人たちが教会を去ってしまうのか
スコット・マクナイト◎著 中村佐知◎訳
2,160円(キリスト新聞社)

好評
発売中

- 【キリスト教出版販売協会加盟書店】
- | | | | |
|-------------------|------------|-----------|-----------------|
| 北海道キリスト教書店 | 待農堂 | 大阪キリスト教書店 | 北九州キリスト教ブックセンター |
| 善隣館書店 | キリスト教書店ハンナ | 堺キリスト教書店 | 新生館 |
| 仙台キリスト教書店 | バイブルハウス南青山 | 神戸キリスト教書店 | キリスト教書店ハレルヤ |
| 恵泉書房 | 横浜キリスト教書店 | 広島聖文舎 | 沖縄キリスト教書店 |
| 教文館 | 清光書店 | 徳島キリスト教書店 | |
| 聖公書店 | 静岡聖文舎 | 松山キリスト教書店 | |
| ABC(アパコブックセンター)書店 | 名古屋聖文舎 | | |
| | 京都ヨルダン社 | | |

『いいね!』をクリックして
最新情報をGET!



<https://www.facebook.com/christianbookoftheyear>

既刊案内 (2014年8月～9月) (定価はすべて本体価格+税)

著 訳・編 者	書 名	判型	頁	本体価格	版 元	発行日
F.W.グラーフ編 片柳榮一監訳	キリスト教の主要神学者上 —テルトウリアヌスからカルヴァンまで	A 5	372	3,900	教 文 館	8/30
佐々木勝彦	日本人の宗教意識とキリスト教	四六	280	1,900	〃	8/30
キリスト教史学会編	植民地化・テモクラシー・再臨運動 —大正期キリスト教の諸相	四六	252	2,500	〃	8/31
M.ブレンナー著 上田和夫訳	ワイマール時代のユ ダヤ文化ルネサンス	A 5	400	3,900	〃	8/31
R.ヘステネス著 朴憲郁、上田好春訳	グループで聖書を学ぶABC	A 5	232	2,400	日本キリスト 教 団 出版 局	8/20
W.H.ウイリモン著 上田好春訳	介入する神の言葉 —洗礼を受けていない人への説教	四六	280	2,400	〃	8/20
ジョン・ヒック著 若林裕訳	神とはいったい何のものか —一次世代のキリスト教	四六	249	2,700	新 教 出 版 社	8/22
宮平望	ヘブライ人への手紙 —私訳と解説	A 5	294	2,200	〃	8/30
ポール・リクール著 久米博ほか訳	愛と正義 —ポール・リクール聖書論集2	四六	290	3,300	〃	8/30
向谷地生良	ベテルな人びと4	四六	254	1,800	一 麦 出 版 社	8/26
原田博充	聖書の平和主義 と日本国憲法	四六	230	2,000	キリスト新聞社	8/15
谷口恭教	魔法の粉	四六	200	1,200	〃	8/25
マイケル・オー	和解を通して	新書	64	400	ヨ ベ ル	8/25
嶺重淑、 波部雄一郎編	よくわかるクリスマス	A 5	226	1,500	教 文 館	9/20
小山晃佑著 森泉弘次訳	富士山とシナイ山 —偶像批判の試み	A 5	450	3,800	〃	9/20
鈴木崇巨	礼拝の祈り —手引きと例文	四六	166	1,400	〃	9/25
F.W.グラーフ編 安酸敏真監訳	キリスト教の主要神学者下 —リチャード・シモンからカル・ラーナーまで	A 5	404	4,200	〃	9/30
ジェラルディン・マコックラン文/ 沢知恵訳/池谷陽子絵	エッセイの木 クリス マスまでの24のお話	A 5	158	1,800	日本キリスト 教 団 出版 局	9/25
オスカー・ワイルド原作/ ジェーン・レイ作/木原悦子訳	幸福の王子	A4変	32	1,600	〃	9/15
V.フランク、P.ラビーデ著 芝田豊彦、広岡義之訳	人生の意味と神 —信仰をめぐる対話	四六	193	2,400	新 教 出 版 社	9/1
広岡義之	フランク人人生論入門	B6変	266	2,000	〃	9/10
ロドニー・スターク著 亀田信子訳	キリスト教とローマ帝国 —小さなメシア運動が帝国に広がった理由	四六	306	3,200	〃	9/30
潮義男	神の国の奥義 下 —説教マタイによる福音書15章-28章	A 5	320	2,800	ヨ ベ ル	9/1
渡辺善太	聖書的説教とは? —渡辺善太著作選11	新書	320	1,800	〃	9/5
Akira Watanabe	Dynamism of Tokyo Baptist Church	A 5	120	800	〃	9/25

書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
北海道キリスト教書店	060-0807	札幌市北区北七条西6丁目	011-737-1721	011-747-5979	http://www.jp-shop.com	sasaki@jp-shop.com	02770-2-56520
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用	http://www7.ocn.ne.jp/~zen-book/	zenrinkan_syoten@yahoo.co.jp	02350-0-874
仙台キリスト教書店	980-0012	仙台市青葉区1-36 敷島センター・1771F	022-223-2736	共用		fqcwk524@ybb.ne.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区臨海2-2 様ヶ丘ファッションセンター	043-238-1224	043-247-3072		keisen@vesta.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
聖公書店	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3235-5681	03-3235-5682	http://seikokai-publishing.jimdo.com	nsk-bookshop@company.email.ne.jp	00140-8-50880
アバコ・ブックセンター	169-0051	東京都新宿区西早稲田2-3-18	03-3203-4121	03-3203-4186	http://www.avaco.info	avaco@avaco.info	00130-0-96398
待農堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	03-3333-6378	http://members3.com.home.ne.jp/taishindo/	taishindo@icom.home.ne.jp	00110-8-95827
キリスト教書店ハンナ	162-0814	東京都新宿区新小川町9-1	03-3269-4490	03-3269-4491		kiristokyoushoten@anna@ybb.ne.jp	00150-9-595509
ハイブルハウス南青山	107-0062	東京都港区南青山5-10-2	03-6418-5230	03-6418-5231	http://www7.biglobe.ne.jp/~yldnrcv:ds/uev.html	biblehouse@bible.or.jp	00250-4-2512
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881		sksch@mva.biglobe.ne.jp	00540-6-82826
清光書店	951-8114	新潟市営所通 一番町313	025-229-0656	共用			00540-6-82826
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612		info@s-seibun.co.jp	0810-8-26558
名古屋聖文舎	464-0850	名古屋市千種区今池5-28-4	052-741-2416	052-733-2648	http://homepage3.nifty.com/seibunsta/	nagoya-seibunsta@nifty.com	00810-5-14073
京都ヨルダン社	602-0854	京都市上京区荒神口通河原町東入ル	075-211-6675	075-211-2834		kjordan@mbx.kyoto-net.or.jp	01010-2-594
大阪キリスト教書店	530-0002	大阪市北区曽根崎新地2-1-15	06-6345-2928	06-6345-2187	http://www11.ocn.ne.jp/~osakabos	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店	591-8044	堺市北区中長尾町2-1-18	072-257-0909	072-253-6132		sakai-x@topaz.plala.or.jp	00960-9-47426
神戸キリスト教書店	650-0021	神戸市中央区三宮町3-9-18三鷹ビル2F	078-331-7569	078-331-9833			01150-7-45120
広島聖文舎	730-0016	広島市中区鞆町7-28	082-228-4914	082-223-0951			01360-4-1958
徳島キリスト教書店	770-0052	徳島市中島田町3-57-1	088-633-6335	共用	http://www6.ocn.ne.jp/~tcs/	tokushoten@shirt.ocn.ne.jp	01630-5-37119
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413		sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
北九州キリスト教ブックセンター	802-0022	北九州小倉北区上雷野5-2-18	093-967-0321	共用	http://kcbook.net/	kcbookcenter@ybb.ne.jp	01780-4-39965
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484			01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市大江4-20-23	096-372-3503	共用			017304-45044
沖繩キリスト教書店	901-2131	浦添市牧港1-60-6	098-877-7283	共用	http://www.okinawacbs.com/	okinawacbs@yahoo.co.jp	020308-1283

※一般書店関係の方は 日キ販営業部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

新教出版社

福音と世界

2014年12月号

特集 終末を神学する — 真の希望のために

キリスト教の根底にある終末論とは？

寄稿者 内田樹、片野淳彦、平岡仁子、松島雄一、

来住英俊、福嶋揚

『柏木義田史料集』の意義……………山口陽一

新連載 南島キリスト教史入門2 ……一色 哲

好評連載 高橋優子、岩田雅一、松谷暉介、早川

朝子、佐藤優、青野太潮、寺園喜基、月本昭

男、沢知恵

A5判・本体588円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

フランクル人生論入門

大好評



教育哲学の視点から長年フランクルを研究してきた著者が、深い宗教性を湛えたフランクル思想の豊かな泉から、生きるヒントを考えた好著。 本体2000円

〒162-0814 東京都新宿区新小川町9-1

TEL : 03-3260-6148

Email: sales@shinkyoy-pb.com

編集室から

十月七日に開催された日本キリスト教書販売株式会社主催のクリスマス見本市に、私の所属団体も発表のスペースを設けさせていただいた。数年かけて企画した書籍や、真夏の暑さと戦いながら制作したクリスマス商品がやっと目のみる。

販売店の方や一般来場者の方とふれあう時間は、日本のクリスチャン人口が1%未満と言われる中で、商談には留まらない親近感を感じることもあり、多くの得るものがあつたような気がする。足を運んでくださった方へ感謝を申し上げたい。

クリスマスプレゼントの喜びは、おとなになってくると内容よりも、自分のために時間を労してくれたことの感激へと変化して行く。

星新一のショートショート『ある夜の物語』で、サンタクロースから望みのプレゼントをもらう権利が、人から人へ譲り渡されていくうちに、クリスマスが終わってしまうというお話がある。プレゼントは宙に浮いたまま行き先を失ってしまっただけ

れど、皆、自分が他人から覚えられている存在であることを知って心が暖められ、安堵の眠りにつくというのがオチ。

クリスマスは全然分かっていないが、結末はナイスユーモア。仕事を依頼している方が以前に、仏教系出版社の仕事も引き受けているとのこと、その出版社が企画のクリスマス会に参加することを話してくれたことがある。

その時は「仏教徒の人もクリスマスは無視できないのか!?」と驚いた。さらに「クリスマスは宗教の垣根を越える力がある。すごいー」とも思った。ジョン・レノンが『Happy Christmas』の歌に込めたメッセージ、「君が望めば、戦争は終わる。」もより現実感が増してくる。

神さまからのプレゼントは全員がもらえる資格をもっている。私たちの準備したプレゼントも、神さまの力によって多くの壁を乗り越え、巡り届けられたなら、優しい光がそこにあると思つた。(吉崎)

魂への配慮としての説教

12の自伝的・神学的出会い

クリスティアン・メラー 小泉健訳



『慰めの共同体・教会』や『魂への配慮の歴史』で知られる著者による自伝的説教論。ルター、キエルケゴール、イーヴァント、ボンヘッフラー、バルト、ポレン、加藤常昭など、時代・地域を越えて活躍した12名の神学者との豊かな出会いと対話を通して、神の言葉を伝える喜びと説教の核心に迫る。

● 四六判・336頁・本体2,600円

好評発売中!

クリスティアン・メラー 加藤常昭訳

『慰めのほとりの教会』

● B6判・330頁・本体2,800円

ユダヤ慈善研究

田中利光



● A5判・356頁・本体4,600円

二十世紀からの贈り物

現代のたとえ話

● B6判・192頁・本体1,700円

F・アワズラー 鳥羽徳子訳

小さな祈りが不安や絶望に苦しむ人に光をなげかけ、新しい日々が始まる。信仰を証しするたとえ話として、1940年代末にシカゴ新聞に連載された心温まる実話集。



クリスマスに読みたい本 既刊好評発売中!

嶺重淑・波部雄一郎編 『よくわかるクリスマス』



クリスマスの起源と成立事情、サンタクロースの誕生と変遷、さまざまな国での祝い方、物語・美術・音楽・映画のモチーフとしてのクリスマス……。28の章とコラムで紹介する、楽しいクリスマス・ブック!

● A5判・226頁・本体1,500円

欧米の福祉思想の源流は、古代ユダヤ社会で形成された「慈善」にあった。貧困者の救済、病者・障害者への処遇、女性の社会活動などに見られるその実態と特質はいかなるものであったのか? 聖書やミシユナ、タルムードなど原典を渉猟し、ユダヤ教と原始キリスト教における慈善の制度・実践を各論的に考察する先駆的研究!



教文館

〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1 TEL.03-3561-5549
本のご注文は(e-shop 教文館)へ! <http://shop-kyobunkwan.com/>

e shop 教文館

フリードリヒ・ユストウス・ペーレルス

雨宮栄一著 告白教会の顧問弁護士

35歳に満たぬ若さで処刑されたボンヘッファーの盟友たる法律家の生涯を通して、従来注目されなかったドイツ教会闘争における信徒の働きに光を当てた力作。

◆四六判・本体3100円



フリードリヒ・ユストウス・ペーレルス
自由教会の顧問弁護士
雨宮栄一著

キリスト教思想の形成者たち

パウロからカール・バルトまで
ハンス・キュンク著／片山寛訳

ユニークな神学思想史入門

キリスト教史にパラダイム転換を画した7人の生涯と思想を鮮やかに描き出す。取り上げる思想家…パウロ、オリゲネス、アウグスティヌス、トマス、ルター、シユライエルマツハー、バルト。10月17日

◆四六判・本体2900円

キリスト教とローマ帝国

小さなメシア運動が帝国に広がった理由
ロドニー・スターク著／穂田信子訳

古代教会のネットワークカ

なぜキリスト教は短期間に伝播できたのか？ 社会学的分析手法を用いて明らかになったその理由とは？ 古代史の最大の疑問に對して、アメリカを代表する宗教社会学者が迫る。ピューリッツァー賞候補ともなった話題作。待望の邦訳。解説・松本宣郎

◆四六判・本体3200円



The Rise of Christianity
by Rodney Stark
キリスト教とローマ帝国
ロドニー・スターク著
穂田信子訳

国家の論理といのちの倫理

現代社会の共同幻想と聖書の読み直し
【新教コイノーニア30】

上村静編／島蘭進・渡辺和子・小倉利丸・菅孝行ほか

◆A5判・本体1800円

使徒行伝

中巻 現代新約注解全書

荒井献著

上巻から37年ぶりの刊行となる待望の続刊。中巻は使徒行伝6章1節から18章22節を扱う。邦人の手になる学界最高水準の行伝注解もいよいよ完結間近(下巻は2015年秋刊行予定)。

◆A5判・本体9000円

イエスの譬え話 1

山口里子著 ガリラヤ民衆が聞いたメッセーヂを探る

イエスの譬えの核心は「神の国」と解釈されてきた。だがあの不在地主たちは本当に神の寓喩なのか？ 従来の読み方を大胆に脱構築する。

◆A5判・本体2000円

一九五七年七月七日 第三種郵便物認可
二〇一四年十二月一日発行(毎月一回)発行
本のひろば 第六八三号 二〇一四年十二月号

発行所 東京都新宿区新小川町九一ー一 一般財団法人キリスト教文書センター
〒162-0814 電話03-3260-6148 振替0117-0151-2679
発行人 本村利春 編集人 中川 忠 印刷所(株)平河工業社
発売所 日本キリスト教書販売株式会社 電話03-3260-1567

定価七八円(税抜七二円)(〒62円)
一年分二二〇〇円(送料共)